

一般財団法人日本建築センター

性能評価業務規程

BR-01-36

平成12年 6月 1日制定

最終改訂 平成29年 4月 1日変更(て)

第1章 総 則

(趣 旨)

第1条 この性能評価業務規程(以下「規程」という。)は、一般財団法人日本建築センター(以下「財団」という。)が、建築基準法(昭和25年法律第201号)(以下「法」という。)第77条の56の規定に定める指定性能評価機関として行う法第68条の25第3項(法第88条第1項において準用する場合を含む。)の評価業務(以下「性能評価業務」という。)の実施について、法第77条の56第2項において準用する法第77条の45第1項の規定に基づき必要な事項を定める。(の)(け)

(性能評価業務実施の基本方針)

第2条 性能評価業務は、法及びこれに基づく命令によるほか、この規程により、公正かつ適確に実施するものとする。

(性能評価業務を行う時間及び休日)

第3条 性能評価業務を行う時間は、休日を除き、午前9時15分から午後5時45分までとする。(む)

2 前項の休日は、次のとおりとする。(の)

(1) 日曜日並びに土曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(3) 12月29日から翌年の1月3日までの日(前号に掲げる日を除く。)

3 第1項の性能評価業務を行う時間及び第2項の休日の規定については、緊急を要する場合又は事前に財団と申請者との間において性能評価業務を行うための日時の調整が図られている場合はこれらの規定によらないことができる。

(事務所の所在地及びその業務区域)

第4条 本部の所在地は、東京都千代田区神田錦町一丁目9番地また、大阪事務所の所在地は、大阪府大阪市中央区南本町一丁目7番15号とし、その業務区域は、日本及び外国の全域とする。(れ)(く)

(業務の範囲)

第5条 性能評価業務を行う範囲は、建築基準法に基づく指定建築基準適合判定資格者検定機関等に関する省令(平成11年建設省令第13号)(以下「指定機関等に関する省令」という。)第59条各号に定める区分のうち次に掲げるものとする。(え)

(1) 第2号の2及び第2号の3の区分

(2) 第5号から第8号の2の区分

(3) 第8号の4から第10号の2の区分 (ま)

(4) 第12号から第12号の3の区分

- (5) 第13号から第15号の区分 (あ) (え)
 - (6) 第16号の区分 (え)
 - (7) 第17号から第23号の区分 (え)
- 2 前項の規定にかかわらず、建築基準法施行規則の一部を改正する省令（平成12年建設省令第26号）附則第2条の規定により構造方法等の認定（法第68条の25第1項に規定する構造方法等の認定をいう。）を受ける建築材料又は構造方法のうち国土交通大臣が建築基準法施行規則（昭和25年建設省令第40号）（以下「施行規則」という。）第11条の2の3の規定を適用しないことを認めたものに係る性能評価については、これを行わないものとする。（は）（て）
- 3 財団の理事長又は担当役員が従事又は役員を務める企業、団体等がある場合にあつては、当該企業、団体等が申請するものを除くものとする。

第2章 性能評価の業務の実施方法

第1節 申請手続き

（性能評価の申請）

第6条 申請者は、性能評価の申請に際し、性能評価申請書（別記様式 BF01-01）及び指定機関等に関する省令第63条第1号の規定に定める図書（以下「性能評価用提出図書」という。）を、定められた期日までに提出するものとする。

- 2 前項の申請を、電子情報処理組織（財団の使用に係る電子計算機（入出力装置を含む。以下同じ。）と申請者の使用に係る入出力装置とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。）の使用又は磁気ディスク、シー・ディー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物（以下「磁気ディスク等」という。）により行うことができることにする場合は、その方法を別記に定めることとする。（れ）

（性能評価申請の受理等）

第7条 財団は、前条の性能評価の申請があつたときは、次の事項について不備等がないことを確認する。

- (1) 申請のあつた性能評価対象案件が第5条に定める性能評価業務の範囲内であること。
 - (2) 性能評価用提出図書に不備がなく、かつ記載事項に漏れがないこと。
 - (3) 申請内容に明らかな瑕疵がないこと。
- 2 前項の規定において、性能評価用提出図書に不備等を認めた場合で、補正の余地のないときは受理できない理由を説明し、性能評価用提出図書を申請者に返還する。また、相当期間を定めて補正を求め、当該期間内に補正されないときも同様とする。
- 3 第1項において不備等がないことを確認できた場合又は前項において補正された場合には、財団は、承諾書（別記様式 BF01-02）を申請者に交付する。この場合、申請者と財団は別に定める「性能評価業務約款」（以下「業務約款」という。）に基づき契約を締結したものとする。
- なお、性能評価申請書に承諾印を押印したものの写しをもって、承諾書に代えることができるものとする。
- 4 申請者が、正当な理由なく、性能評価に係る手数料を指定の期日までに支払わない場合には、財団は業務約款に従って前項の契約を解除することができる。

（業務約款に盛り込むべき事項）

第8条 業務約款には、業務期日、契約当事者の基本的責務に関する事項、契約の解除に関する事項及び秘密保持に関する事項を定めることとする。

2 前項の契約当事者の基本的責務に関する事項及び契約の解除に関する事項の特約事項として、次の事項を盛り込むこととする。(ろ)

(1) 申請者は、提出された書類のみでは性能評価を行うことが困難であると財団が認めて請求した場合は、申請に係る構造方法等を評価するために必要な追加書類又は申請に係る建築材料その他のものを合意の上定めた期日までに財団に提出しなければならない旨の規定

(2) 申請者は、財団が指定建築材料の審査において、当該申請に係る工場等に立ち入る場合、業務上必要な審査を行うことができるように協力しなければならない旨の規定(ろ) (り)

(3) 申請者は、財団が審査中に別表(ろ)項に掲げる業務方法書に示す基準に照らして性能評価用提出図書に関する是正事項を指摘した場合は、合意の上定めた期日までに当該部分の性能評価用提出図書の修正その他必要な措置をとらなければならない旨の規定

(4) 性能評価書の交付前までに申請者の都合により申請内容を変更する場合は、申請者は、合意の上定めた期日までに財団に変更部分の性能評価用提出図書を提出しなければならない旨の規定。かつ、その変更が大幅なものと財団が認める場合にあっては、申請者は、当初の申請内容に係る申請を取り下げ、別件として改めて性能評価を申請しなければならない旨の規定

(5) 財団は、不可抗力によって、業務期日までに性能評価書を交付することができない場合には、申請者に対してその理由を明示の上、必要と認められる業務期日の延期を請求することができる旨の規定

(6) 申請者が、その理由を明示の上、財団に書面をもって業務期日の延期を申し出た場合でその理由が正当であると財団が認めるときは、財団は業務期日の延期をすることができる旨の規定

(7) 財団は、申請者の責めに帰すべき事由により業務期日までに性能評価書を交付することができないときは、契約を解除することができる旨の規定

第2節 性能評価の実施方法

(審査の実施方法)

第9条 財団は、性能評価の申請を引受けたのち速やかに、第14条に定める評価員に審査を実施させることとし、指定機関等に関する省令第64条第1号に定める評価員は2名以上とする。(ろ) (り)

2 評価員は、指定機関等に関する省令第63条の規定及び別表(い)項に掲げる性能評価の区分に応じてそれぞれ同表(ろ)項に掲げる業務方法書に基づき、審査を行う。ただし、指定機関等に関する省令第64条第2号又は第3号に規定する要件により選任された評価員による審査は、それぞれ同条各号に規定する性能評価の方法に限る。(れ) (ろ) (り)

3 評価員は、指定機関等に関する省令第63条第3号に規定する通知を行う場合は、別記様式BF01-03により行うものとする。ただし、財団の定める性能評価申請要領にあらかじめ申請に係る建築材料その他のものの提出が定められているときは、当該性能評価申請要領をもってこの通知とする。(れ) (ろ) (り)

4 評価員は、審査上必要あるときは、申請者に説明を求めるものとする。(り)

(性能評価書の交付等)

第 10 条 財団は、評価員の審査の結果、申請に係る構造方法等が別表（ろ）項に掲げる業務方法書に示す基準に適合していると認めたときは、別記様式 BF01-04 に定める性能評価書を申請者に交付するものとする。

2 財団は、前項の性能評価書の作成に当たっては、図面の不整合・記載内容の不足等の不備がないようにするものとする。（お）

3 財団は、評価員の審査の結果、申請に係る構造方法等が前項の基準に適合せず、かつ当該不適合事項が是正される見込みがないと認めて性能評価をしないときは、その理由を付した通知書（別記様式 BF01-05）をもって申請者に通知するものとする。

（性能評価の申請の取下げ）

第 11 条 申請者は、申請者の都合により性能評価書の交付前に性能評価の申請を取り下げる場合は、その旨及び理由を記載した取り下げ届（別記様式 BF01-06）を財団に提出する。

第 3 章 性能評価に係る手数料

（性能評価手数料の収納）

第 12 条 財団は、性能評価の申請を引受け契約を締結した時は、施行規則第 11 条の 2 の 3 第 3 項第 4 号、第 5 項第 1 号及び第 3 号に定める手数料の請求書を申請者に対して発行する。（ぬ）（ふ）（え）

2 申請者は、性能評価に係る手数料を指定期日までに直接財団に納入するものとする。ただし、申請者の要望により財団が認める場合には、別の収納方法によることができる。

3 前項において、振り込みにより納入する場合の費用は申請者の負担とする。

（性能評価手数料の返還）

第 13 条 収納した性能評価に係る手数料は返還しない。ただし、財団の責に帰すべき事由により性能評価が実施できなかった場合には、この限りでない。（ぬ）

第 4 章 評価員

（評価員の選任）

第 14 条 理事長は、性能評価業務を実施させるため、指定機関等に関する省令第 64 条に定められた要件に該当し、かつ次に掲げる業種（以下「制限業種」という。）を兼業しない者を評価員として選任する。

(1) 設計・工事監理業（工事請負契約事務、工事の指導監督、手続きの代理等の業務及びコンサルタント業務を含む。ただし、建築物に関する調査、鑑定業務は除く。）

(2) 建設業（しゅんせつ工事業、造園工事業、さく井工事業等建築物又はその敷地に係るものではない業務を除く。）

(3) 不動産業（土地・建物売買業、不動産代理・仲介業、不動産賃貸業及び不動産管理業を含む。）

(4) 建築材料・設備の製造、供給及び流通業

2 前項の評価員は、財団職員から選任するほか財団職員以外の者を委嘱して選任するものとする。

3 評価員の選任は、当該評価員が審査を行う性能評価の対象範囲を、別表（は）項の性能分野の区分により明示して行うものとする。なお、指定機関等に関する省令第 64 条

第2号又は第3号に規定する要件により選任する場合は、当該評価員が行うことが出来る性能評価の方法を明示するものとする。(ふ)

(評価員の解任)

第15条 理事長は、評価員が次のいずれかに該当する場合は、その評価員を解任する。

- (1) 秘密保持義務違反等の職務上の業務違反その他評価員としてふさわしくない行為があったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に堪えないと認められるとき。
- (3) 評価員が、制限業種を兼業するに至ったとき。
- (4) その他、法第77条の56条第2項において準用する法第77条の42第4項の規定による国土交通大臣の解任命令があったとき。(は)

第5章 雑 則

(秘密保持義務)

第16条 財団の役員及びその職員並びにこれらの者であった者(委嘱に基づく評価員を含む。)は性能評価業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は自己の利益のために使用してはならない。

(業務の実施体制)

第17条 性能評価業務を統括管理するために担当役員を置くとともに、性能評価業務に係る事務処理等を行うために評定部を置き、評定部には調整業務課、構造課、設備防災課及び住宅課を置くものとする。(れ)(み)

- 2 性能評価業務に従事する職員は、その職務の執行に当たって厳正、かつ公正を旨とし、不正の行為のないようにしなければならない。
- 3 評価員及び性能評価業務に従事する職員は、自己が関係する個人、企業、団体等が申込む構造方法等に係る性能評価業務を行わないものとする。

(帳簿及び図書の保存期間)

第18条 保存期間は次のとおりとする。(ふ)

文 書 区 分	保 存 期 間
(1) 法第77条の56条第2項において準用する法第77条の47第1項に規定する帳簿	財団が性能評価業務を廃止するまで
(2) 性能評価用提出図書	財団が性能評価業務を廃止するまで
(3) 性能評価書	財団が性能評価業務を廃止するまで
(4) その他審査の結果を記載した図書	財団が性能評価業務を廃止するまで

(書類の管理並びに帳簿及び図書の保存方法)

第19条 審査中の性能評価用提出図書は、審査のため特に必要ある場合を除き事務所内の施錠できる室又はロッカー等に保管することとする。

- 2 前条に掲げる帳簿、図書等は、事務所内の施錠できる室又はロッカー等に保存する等確実、かつ秘密の漏れることのない方法で保存する。

3 前項の保存は、前条の表の(1)に規定する帳簿への記載事項並びに(2)及び(3)に規定する図書等が、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスク等に記録され、必要に応じ電子計算機その他の機器を用いて明確に表示されるときは、当該ファイル又は磁気ディスク等の保存にて行うことができる。(れ)

4 前項の規定に基づき帳簿、図書等を電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスク等に保存した場合において、当該保存したデータを印刷した書類がある場合には、当該ファイル又は磁気ディスク等のデータを原本として扱うものとする。(れ)

(事前相談)

第 20 条 財団に性能評価を申請しようとする者は、申請に先立ち、財団に事前に相談をすることができる。

(電子情報処理組織に係る情報の保護)

第 21 条 財団は、電子情報処理組織による申請の受付及び図書の交付を行う場合は、情報の保護に係る措置について別に定めることとする。

(附則)

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日より施行する。(て)

別表

区分	(い)	(ろ)	(は)
2の2	法第20条第1項第1号の認定に係る性能評価 (そ)	時刻歴応答解析建築物性能評価業務方法書(そ)(ね)(ま)(け)(こ)(え)	構造安全性能Ⅰ 特定天井性能(ま)
2の3	法第20条第1項第2号イ及び第3号イの認定に係る性能評価	構造計算プログラムの性能評価業務方法書(れ)(こ)	構造安全性能Ⅴ
5	法第31条第2項の認定に係る性能評価	浄化槽性能評価業務方法書(は)(ち)(つ)	浄化槽等性能
	令第35条第1項の認定に係る性能評価		
	令第29条の認定に係る性能評価		
	令第30条第1項の認定に係る性能評価		
6	法第37条第2号の認定に係る性能評価	建築材料の品質性能評価業務方法書(ち)(つ)(ふ)(て)	建築材料の品質性能
7	令第20条の2第1号ニの認定に係る性能評価	換気設備性能評価業務方法書	防火設備・換気設備性能
8	令第20条の3第2項第1号ロの認定に係る性能評価		
8の2	令第20条の7第1項第2号表の認定に係る性能評価(れ)	シックハウス対策に関する居室等の性能評価業務方法書(か)	換気等設備性能
	令第20条の8第2項の認定に係る性能評価(れ)		
8の4	令第20条の8第1項第1号ロ(1)の認定に係る性能評価(れ)	シックハウス対策に関する居室等の性能評価業務方法書(か)	換気等設備性能
8の5	令第20条の8第1項第1号ハの認定に係る性能評価(れ)		
8の6	令第20条の9の認定に係る性能評価(れ)		
1 4	令第112条第14項第1号の認定に係る性能評価	防火設備性能評価業務方法書(を)	防火設備等性能
	令第112条第14項第2号の認定に係る性能評価		
	令第112条第16項の認定に係る性能評価		
	令第126条の2第2項の認定に係る性能評価		
	令第129条の13の2第3号の認定に係る性能評価		
	令第136条の2第1号の認定に係る性能評価		
令第145条第1項第2号の認定に係る性能評価			

1 5	令第115条第1項第3号口の認定に係る性能評価	煙突性能評価業務方法書	
1 6	令第126条の5第2号の認定に係る性能評価	非常用照明性能評価業務方法書（え）	
1 9	令第129条の2の7第3号の認定に係る性能評価	冷却塔設備性能評価業務方法書	
2 1	令第129条の15第1号の認定に係る性能評価	避雷設備性能評価業務方法書	
9	令第22条の認定に係る性能評価	防湿性能評価業務方法書	耐久性能
1 0	令第22条の2第2号口の認定に係る性能評価	防水性能評価業務方法書	
1 0 の 2	令第39条第3項の認定に係る性能評価（まの2）	特定天井性能評価業務方法書（ま）（こ）	特定天井性能（ま）
1 2	令第67条第1項の認定に係る性能評価	鉄骨造の特殊な接合方法に関する性能評価業務方法（を）（つ）	構造安全性能IV
1 2 の 2	令第67条第2項の認定に係る性能評価	鉄骨造の特殊な継手又は仕口に関する性能評価業務方法書（を）（つ）	
1 2 の 3	令第68条第3項の認定に係る性能評価	ボルト孔の径の規定によらない特殊な高力ボルトに係る性能評価業務方法書（を）（つ）	
1 3	令第108条の3第1項第2号の認定に係る性能評価	耐火性能評価業務方法書（る）	防災性能
	令第108条の3第4項の認定に係る性能評価		
1 7	令第129条第1項の認定に係る性能評価	避難安全性能評価業務方法書（こ）	
	令第129条の2第1項の認定に係る性能評価		
1 8	令第129条の2の5第2項第3号の認定に係る性能評価	配管設備性能評価業務方法書	給排水設備性能
1 7 の 2	令第129条の2の5第1項第3号ただし書きの認定に係る性能評価	昇降路内配管設備性能評価業務方法書（れ）	昇降機性能
2 0	令第129条の4第1項第三号の認定に係る性能評価	昇降機性能評価業務方法書（ら）（む）（や）	
	令第129条の8第2項の認定に係る性能評価		
	令第129条の10第2項の認定に係る性能評価		
	令第129条の10第4項の認定に係る性能評価		

	(令第129条の10第3項第二号に掲げる安全装置を除く。) (ら)		
	令第129条の12第2項の認定に係る性能評価		
	令第129条の12第5項の認定に係る性能評価		
2 1 の 2	令第139条第1項第3号及び第4号ロの認定に係る性能評価 (そ)	時刻歴応答解析工 作物性能評価業務 方法書 (そ) (ま) (こ) (え)	構造安全性能VI
2 1 の 3	令第140条第2項において準用する令第139条第1項第3号及び第4号ロの認定に係る性能評価 (そ)		
2 1 の 4	令第141条第2項において準用する令第139条第1項第3号及び第4号ロの認定に係る性能評価 (そ)		
2 1 の 5	令第143条第2項において準用する令第139条第1項第3号及び第4号ロの認定に係る性能評価 (そ)		
2 1 の 6	令第144条第1項第1号ロ及びハ (2) の認定に係る性能評価 (そ)		
2 2	令第144条第2項において読み替えて準用する令第129条の4第1項第3号の認定に係る性能評価 (そ)		
	令第144条第1項第3号イの認定に係る性能評価 (そ)		
	令第144条第1項第5号の認定に係る性能評価 (そ)		
2 3	施行規則第1条の3第1項第1号イ、同号ロ (1) 及び (2) 並びに同項の表三の各項の認定に係る性能評価 (つ)	①施行規則第1条の3第1項第一号ロ (2) の規定に基づく認定に係る性能評価業務方法書(基礎ぐいの許容支持力の算出方法) (は) (へ) (り) (れ) (つ) ②施行規則第1条の3第1項第一号イ、同号ロ (1) 及び同号ロ (2) の認定に係る性能評価業務方法書(木造等の建築物又はその部分) (に) (よ) (れ) (つ) (け) ③施行規則第1条	構造安全性能III

		<p>の3 第一項第一号イ、同号ロ（1）及び同号ロ（2）の認定に係る性能評価業務方法書（鉄骨造、アルミニウム合金造等の建築物又はその部分）（に）（り）（よ）（れ）（つ）（け）</p> <p>④施行規則第1条の3 第一項第一号イ、同号ロ（1）及び同号ロ（2）の認定に係る性能評価業務方法書（組積造、補強コンクリートブロック造、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、無筋コンクリート造等の建築物又はその部分）（に）（よ）（れ）（つ）（け）</p>	
--	--	--	--

（注）区分欄の数字は、指定機関等に関する省令第59条の号番号に対応する。

【制定・変更履歴一覧】

制定・変更改定年月日	附則
平成12年 6月 1日制定	
平成13年 6月12日変更(い)	この規程は、平成13年 6月12日より施行する。
平成13年 8月22日変更(ろ)	この規程は、平成13年 8月22日より施行する。
平成13年12月 3日変更(は)	この規程は、平成13年12月 3日より施行する。
平成13年12月10日変更(に)	この規程は、平成13年12月10日より施行する。
平成14年 3月26日変更(ほ)	この規程は、平成14年 3月26日より施行する。
平成14年 4月26日変更(へ)	この規程は、平成14年 4月26日より施行する。
平成14年 6月21日変更(と)	この規程は、平成14年 6月21日より施行する。
平成14年12月27日変更(ち)	この規程は、平成14年12月27日より施行する。
平成15年 3月 5日変更(り)	この規程は、平成15年 3月 5日より施行する。
平成15年 3月14日変更(ぬ)	この規程は、平成15年 3月14日より施行する。
平成15年10月 9日変更(る)	この規程は、平成15年10月 9日より施行する。
平成16年 3月31日変更(を)	この規程は、平成16年 3月31日より施行する。
平成16年 4月19日変更(わ)	この規程は、平成16年 4月19日より施行する。
平成16年 7月23日変更(か)	この規程は、平成16年 7月23日より施行する。
平成17年 3月31日変更(よ)	この規程は、平成17年 3月31日より施行する。
平成17年10月17日変更(た)	この規程は、平成17年10月17日より施行する。
平成19年 5月25日変更(れ)	この規程は、平成19年 5月25日より施行する。
平成19年 6月20日変更(そ)	この規程は、平成19年 6月20日より施行する。
平成19年 6月21日変更(つ)	この規程は、平成19年 6月21日より施行する。
平成19年 7月20日変更(ね)	この規程は、平成19年 7月20日より施行する。
平成21年 1月26日変更(な)	この規程は、平成21年 1月26日より施行する。
平成21年 3月30日変更(ら)	この規程は、平成21年 3月30日より施行する。
平成22年 6月 1日変更(む)	この規程は、平成22年 6月 1日より施行する。
平成22年 6月 3日変更(う)	この規程は、平成22年 6月 3日より施行する。
平成23年 3月24日変更(み)	この規程は、平成23年 3月24日より施行する。
平成23年 4月 1日変更(の)	この規定は、平成23年 4月 1日より施行する。
平成23年10月 7日変更(お)	この規定は、平成23年10月 7日より施行する。
平成23年11月 7日変更(く)	この規程は、平成23年11月 7日より施行する。
平成24年 2月14日変更(や)	この規程は、平成24年 2月14日より施行する。
平成26年 1月23日変更(ま)	この規程は、平成26年 1月23日より施行する。
平成27年 6月 1日変更(け)	この規程は、平成27年 6月 1日より施行する。
平成28年 1月27日変更(ふ)	この規程は、平成28年 1月27日より施行する。
平成28年 6月 1日変更(こ)	この規程は、平成28年 6月 1日より施行する。
平成29年 1月31日変更(え)	この規程は、平成29年 1月31日より施行する。
平成29年 4月 1日変更(て)	この規程は、平成29年 4月 1日より施行する。